

金相武氏の報告をめぐる討議

韓国における代表的観光地であり、由緒深い寺院である海印寺と仏国寺を中心として、観光供給側面よりその実態を究明し、これに伴う改善案を提示し、その開発と振興に寄与せんとするものである。その方法として、両地域の商店街を中心として、その運営者の特性・展望・満足度・態度等につき、設問調査を行い、観光が商店街形成に及ぼす影響、ならびに宗教と寺院管理に与える影響を分析している。

最近、生活条件の急激な改善は、観光に対する関心を高め、比較的たやすく観光を行いうる状況にあるが、このような研究は時宜をえたものといえよう。また、供給側面よりみたとき、限定された条件により最大の効果をあげなければならないので、とくにそうであるとおもわれる。

本研究においては、多くの問題点と改善案を提示しているが、結論として、地域社会として特色ある観光商品を開発し、その多様化と供給の円滑を期し、イメージ創出に重点をおくべきであると提案している。

これに対し、つぎのような質疑応答が行われた。

(問1) 両寺院の観光地としての背景は、一つは文化・歴史的であり、一つは秀麗な山岳地域であるので、寺院観光としての連携性はあっても、観光客の行動は異なるものとおもわれる。従って、両地域のその収容の限界性も異なるのではないか。

(答) ここにおいて、寺院としての類似性、唯一性、代表性、歴史性、神秘性等について、寺院を中心とする観光供給側面よりの、投入と産出を分析したのは、テーマ観光開発案提示の標本となりうるものと判断したからである。

(問2) 開発にあたっては、需要側である観光客と、供給側とのうち、どちらを優先的に考えるか。

(答) 一般的な商品の概念としては、需要者の欲求充足にもとづく製品開発に重点をおくけれども、観光地は制限された収容力であるため、どちらを優先的に見るかよりも、保全と開発の両側面より考慮すべきであり、適切な利用の統制システムの開発も慎重に考慮されねばならない。

(問3) 統計に開発の必要性和潜在性が大きくあらわれているのは、地域住民(主として集団施設地区の商人)の経済的要求によるものであるが、国民の健全な観光側面よりみたとき、所得源泉としての観光開発が果たしてのぞましいといえようか。

(答) 地域住民の立場より、所得の乗数効果を最優先的に渴望しているが、開発の否定的効果を長期的にみれば、決して看過されえない問題である。開発の計画は相異なる異質的な利害集団によって行われるものであろうが、現在あらわれているもっとも大きな問題は、開発の利益が地域住民達に還元されないということである。観光による否定的効果である公害のみ残ることとなれば、地域住民の抵抗は高まり観光客との対立をおこすこととなる。

(問4) 寺院を中心とした各種リクリエーション施設の開発は果たしてのぞましいことであるか。

(答) 観光の要求は多様であり複合的である。寺院は、宗教的、教育的、文化的価値をもっているもので、敬虔な雰囲気をかもしだすよう周辺環境を造成しなければならない。ここでリクリエーションというのは、一定の距離をへだてた施設を意味し、これらはたがいに連携を保ちながら、多様な複合的な観光欲求を充足せしめることとなる。

(金元仁*)

(訳 金鏞淇*)

*啓明大経営大学観光経営学科助教授

**啓明大産業経営研究所特別所員、嶺南大学校名誉教授